

「復活の主」

ルカによる福音書 二四章一―一二節

南山教会 二〇二三年四月九日

村山盛芳

今日はイースター、復活祭です。イエスがキリスト（救い主）として、十字架の死の三日目、週の初めの日の朝に復活されたことをお祝いする、一年で一番嬉しいお祭りです。その事は、新約聖書の四つの福音書がすべて伝えていて、キリストの生涯のクライマックスです。今日はルカによる福音書からその出来事を学びましょう。

その朝、まだ復活を知らない女性たちが墓に来ました。十字架から取り下ろされた亡骸に塗るための香料を持って来たのです。しかし、お墓は、入り口の石が転がされ、中にあるはずのイエスの体がありませんでした。そこに「輝く衣を着た二人の人がそばに現れ」、こう言いました。五節―七節「なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだ、ガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架に付けられて、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。」

イエスの復活を最初に知らされたのは女性たちでした。彼女たちは復活したイエスを見たわけではありません。また、イエスの復活を期待していたわけではありません。また、この輝く衣を着た二人が「ここにはおられない。復活なさったのだ」と言ったから、「そうか」と簡単に信じたのでもありません。この二人が「まだ、ガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない」と言われて、イエスの言葉を思い出したのです。「人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架に付けられ、三日目に復活することになっている」、イエスが話しておられたのはそういう事だったので、その事を思い出したのです。

復活という奇蹟そのものは信じがたい、途方もない出来事です。そして、エルサレムに来る以前からずっとイエスはこの事を語っていました。ご自分が、人の手に引き渡されて、重罪人か、生きている価値のないかのように十字架で殺されて、三日目によみがえる。そんな途方もないことをイエスはずっと語っていました。この「必ず」という言葉は、神の救いのご計画の中で、こうするように定められている、必然である、という意味の言葉です。イエスは、人間を救う神の計画の実現のために、人間の最も深い闇にまで降りて来られました。それによって、人を闇や死、罪や破綻から救い出して、神との関係を回復してくださるためでした。

この「必ず」(デイ)という言葉をも、ルカによる福音書は一八回も使っています。

ルカが書いたと言われる「使徒言行録」では二二回、合わせて四〇回も繰り返す、大切な言葉です。イエスは自分が、神の計画の中で、必ず神の国を宣べ伝え、最後は必ず十字架の死にまで自分を明け渡し、そうして必ず三日目によみがえる。それが神のご計画だ、という意味で「必ず・くねばならない・することになっている」と語っていました。

それだけではありません。その「必ず」には、一八年も病気で腰が曲がっていた女性の「束縛を解いてやるべきではなかった。」（ルカ一三章一六節）と言ひ、三好牧師が決別説教で語られた放蕩して無一文になって帰ってきた惨めな息子を大歓迎して、「いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。」（ルカ一五章三二節）と言ひ、町中で嫌われていた徴税人ザアカイに向かつて「急いで降りて来なさい。今日はぜひあなたの方に泊まりたい。」（ルカ一九章五節）と言ひ、おられます。どれもこの「必ず」（デイ）という言葉が使われています。貧しい人を引き上げ、失敗した人を迎え入れ、嫌われ者の客になる。それがイエスの「必ず」でした。その究極の「必ず」が、イエスご自身が人に好き勝手に扱われて、ゴミのように殺されて、三日目に復活するという「必ず」です。その言葉通り復活されたのなら、他の「必ず」も、本当に成るのです。人には信じがたいことを、神がなしてください。人には出来ないことを、イエスは果たしてください。

ます。壊れていたものを修復して、死んだものをよみがえらせて、捨てられたものを喜びで満たしてくださいるのです、「必ず」です。

この時の女性たちの報告を聞いても、使徒たちは信じませんでした。でもその弟子たちにもイエスは近づかれたことが次週読みます一三節以下に伝えられます。イエスは彼らを追いかけてくださるのです。

この朝、彼女たちが用意した香料は不要でした。ある意味では無駄になりました。でも、その香料を用意してイエスの亡骸に塗りたいと思ったからこそ、彼女たちは最初に復活を知らされました。男の使徒たちはたわ言のように思い、耳を貸しませんでしたが、彼女たちこそ復活の最初の証人になりました。彼女たちの思いは、香油のように豊かに香ばしく、主が喜びとしてくださったのです。

私たちは小さく、分からないことだらけです。その私たちを、主イエスは愛して、私たちの罪も恐れも知って、私たちを命へと救ってくださいます。人のあらゆる苦しみも死も知る方として、そして、その死から復活された方として現れてくださいました。主は私たちの手にあるもの、うつむいた歩み、諦めている現実にも、本当に真実に働いてくださいます。何一つ無駄とはなさいません。神だけが私たちになしうる不思議なことを必ずなしてくださいるのです。